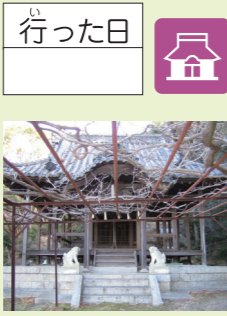


おとしじんしゃ かねだ
大年神社(兼田)

もとは北の山の上にあったものを、今の場所に
移しました。明治時代の初めごろに御神体
の下調べをしたときに、観世音の木像が出て
きたので、これを明徳寺におさめ、新たに別の
場所から鏡をもらい、御神体としました。今は
兼田の守り神としてまつられています。



行った日



おとしじんしゃ ひがやま
大歳神社(東山)

天正年間(1573~92)に建てられ、明暦3年
(1657)に建て直されました。寛政2年(1791)に
本殿を建て直し、昭和5年(1930)には本殿の基壇
をつくり直しました。昭和6年(1931)に拝殿の基礎
工事がされました。最近では、傷みがはげしく、平成
17年(2005)には新たに修理が行われました。

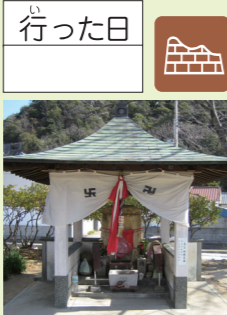


行った日



かねだ じぞう
兼田地蔵

兼田バス停のすぐ東側にあります。石をくり
ぬいた棺に地蔵像が彫られていて、お堂にお
かれています。地蔵像には「貞治4年(1365)
8月24日」と彫られています。

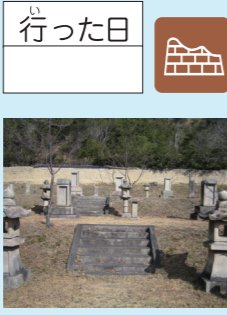


行った日



かわいけ ぼしょ
河合家墓所

河合寸翁は姫路藩家老として藩の財政の立て
直しに多くの力をそそぎました。姫路でつくられ
た木綿を江戸で売ったり、新田を開発したりしま
した。固寧倉をつくるようすすめたこともよく知
られています。後に、この墓所が河合家一族の
墓所となり「河合家墓所」とよばれています。



行った日



こねいそう ひがやま
固寧倉(東山)

東山固寧倉は、入り口の大きさが約4.5m、
奥行きが約9.8mの建物で、内部は二つの部屋
に区切られています。北側の中央には片引き
戸、西側には開き戸の出入り口が設けられて
います。入り口にかげられた額に墨で
「天保14年」(1843)と書かれています。

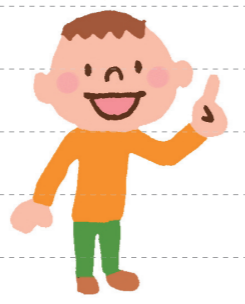


行った日

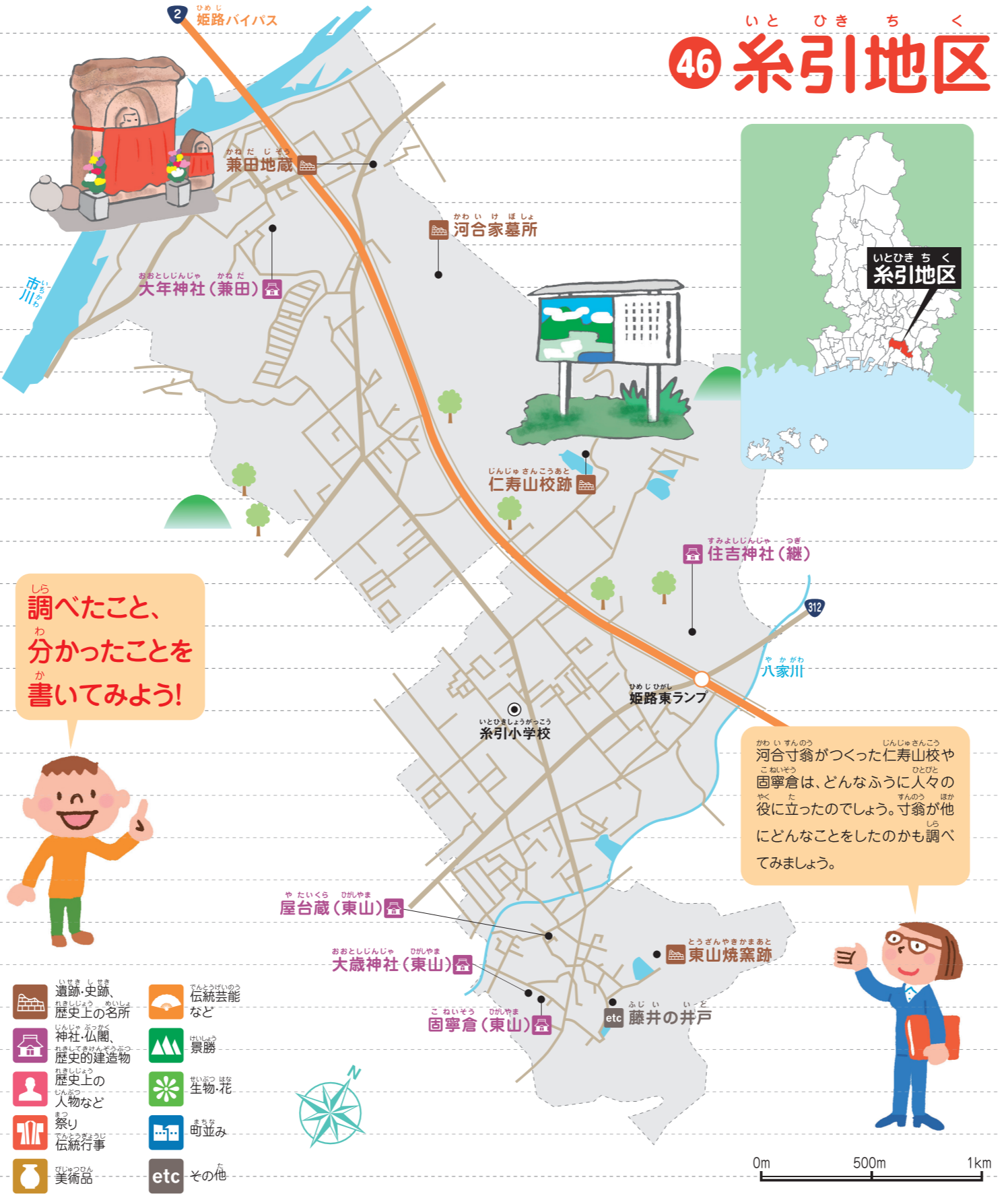


- 遺跡・史跡、
歴史上の名所
- 神社・仏閣、
歴史的建造物
- 歴史上の
人物など
- 祭り
伝統行事
- 美術品
- 伝統芸能
など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

調べたこと、
わかったことを
書いてみよう!



河合寸翁がつくった仁寿山校や
固寧倉は、どんなふうに入々の
役に立ったのでしょうか。寸翁が他
にどんなことをしたのかも調べ
てみましょう。



いとひきちく
46 系引地区



じんじゅさんこうあと
仁寿山校跡

仁寿山校は、姫路藩家老として藩の財政の
立て直しに多くの力をそそいだ河合寸翁が、
文政4年(1821)につくった学校です。身分
や古いしきたりとらわれない教育を目的と
して、人を育てました。今は井戸と土塀の跡が
あるだけです。



行った日



すみよしじんしゃ つぎ
住吉神社(継)

以前は麻生八幡社の一つで、まつられている
神さまは「上筒男神、中筒男神、下筒男神」
で、もとは海の守り神です。後ろの山は船橋山
といひます。なぜ建てられたのか、詳しいこと
は分かっていませんが、今は毎年6月下旬の
湯立て祭りがだけが行われています。



行った日



とうざんやきかまあと
東山焼窯跡

姫路焼、興禅寺焼ともいわれ、文政5年
(1822)興禅寺東の山のふもとに窯をつくり、
有田焼の手法で、染付や青磁のどつくりや
皿・鉢などを焼きました。今、窯の跡は畑にな
り、作業場の井戸と窯の跡を示す標柱が建て
られています。



行った日



ふじい いど
藤井の井戸

東山は地下水の水質がひどく悪かったため、
東側にある向山の先端部の岩盤からわき出
る清水に目をつけ、ここに村民みんなが使う
「藤井の井戸」をつくり、昭和30年(1955)
ごろまで飲み水として利用しました。



行った日



やたいくら ひがやま
屋台蔵(東山)

入り口の大きさは約5m(2.8間)、奥行は約
9m(5間)、高さは約6m。入り口の観音開き
のどびら(神戸・橋詰辨二郎作)は昭和13年
(1938)10月に修理され、筋鉄饅頭金物が
付けられています。昭和51年(1976)に
改築されました。



行った日

